

## 2023年度

### みすずキッズ保育園 自己評価総括表

地域社会における保育施設として、その運営や保育内容について、自らの保育実践を振り返り、自己評価を行いましたので、その結果を以下の通り公表いたします。

また、本自己評価の結果を踏まえ、今後も更なる専門性の向上や保育実践の改善に努め、より一層質の高い保育の実践を目指してまいります。

評価方法		
保育士等（全職員）の自己評価	評価期間	2023年1月22日（月）～2月16日（金）
	実施方法	全職員に自己評価について趣旨を説明し自己評価を実施した。
保育施設の評価	評価日	2023年2月28日（水）
	実施方法	話し合いにより職場全体で共有し、保育施設の課題を明確化し、改善策を検討した。

項目ごとの評価	
保育理念	子どもの「生きる権利」「育つ権利」「守られる権利」「参加する権利」を念頭に「おもいっきり学ぶ」「おもいっきり遊ぶ」の保育理念に則り、『生きる力（心・身）が育つ保育』を目標にした。そして、子ども主体の保育を実践するために、園内外の研修にて自己研鑽しミーティング・職員会を通じて全職員で周知することで「つながる保育」「生きる力を育む保育」を目指す保育園とした。
子どもの発達援助	場面に応じた子どもの思いを大切に「つながる保育」を意識し、柔軟な保育を実践するために、環境設定（コーナー作り・玩具の出し方の工夫・手作り玩具等）の遊びの中で子どもの様子を全職員が共有し、個の対応について「計画⇒実行⇒評価⇒改善」を繰り返し、クラスや全体でのミーティングを日々行うことで工夫が生まれてきた。
保護者に対する支援	感染症対策緩和により、行事を通しての保護者との交流の機会が持てた。送迎の際に情報共有・子どものトピックス・体調等を伝えるように対応した。また、行事等を動画配信「てのりの」や写真を活用したことで子どもの成長を共有することができた。
保育を支える組織的基盤	自己研鑽・保育の質の向上のため、外部研修や内部研修に参加した。その都度報告会をすること・定期的な職員面談・職員会議をし、スキルアップを図った。学んだ内容を保育の中で実践し、振り返り、工夫することができた。

総評
保育の内容については、「遊びの確保」「食育」「主体性」を中心に位置づけて活動を行ってきた。保育のねらいを考える上では、「つながる保育」「生きる力を育む保育」を意識し、個人指導計画・月案・週案に反映することができた。また、食育活動で食に興味を持つようになった。次年度も、コミュニケーション大切にした、子どもの育ちと保護者支援のための取り組みを並行して行うことで、更なる信頼関係を築き、子ども、保護者、地域から「保育園が安心して生活できる場所・頼れる場所」と思ってもらえるよう努めたい。